



第44号

# 千 町 田

## 上半期を終えて 代表理事 山本耕一

今期の春作業は新型コロナウイルス感染症拡大による非常事態宣言の中でスタートしました。田植作業に出られた方々にはマスクを着用し感染防止に努めて頂きました。田植えを無事終えることが出来た事を感謝申し上げます。

報道で、コロナウイルスの影響で米の需要が予想以上に減少し民間在庫量の適正水準を大幅に超え米卸相場の動きは低調となり令和2年産米の買取価格に影響が出るのでは、とされています。

その中で、のきの郷では米の需要が将来落ち込む事を想定し水稻関係に関わる経費削減を掲げ播種から育苗まで全て内製化するため、昨年から播種管理棟、育苗ハウス等の事業導入を進めてきました。施設は今春竣工し、水稻関係作付け131ha分1万2600箱強の育苗に取組み大きなトラブルもなく無事終了しました。経費的には資材、種子、作業費など含めて昨年対比約500万円の削減が出来ました。

今年度の作付計画に於いて5工区に計画していた水稻関係は、利弘町地内にある杵築ため池が漏水のため貯水機能が失われ作付けを危惧しましたが、利弘町の皆様のご尽力により応急的に水利の確保を行い収穫が出来るよう生育を見ることが出来ました。

施設園芸のイチゴ栽培はR1年度末事業(県リースハウス)完成の縛りの中で工事を進め、行政指導の下でハウスは5月末にほぼ完成し9月定植、12月収穫を目指す運びとなりました。ブドウ栽培については、11月定植を目指しハウス設備設計及び導入見積り中です。

今季は梅雨前線が長期間にわたる居座り、長雨による日照不足などで大豆の播種作業、トマトの生育等に影響が出ています。毎年のように発生する異常気象はすでに想定外ではなく、ある程度それを考慮した営農計画を考えることが必要となっ



## はね営農組合視察研修 企画部長 坂田宣雄

最後にになりましたが、今期は役員任期の最終年度のため中期プラン完遂に向け努力いたします。

6月24日(水)に

大田市波根町「はね営農組合」へ、理事や特産部など15名で視察研修に出掛けました。

内容は、今年からのきの郷で栽培を始めるミニトマト品種アンジェシの栽培方法や調整作業などの作業管理とその販路についてです。



「パイプハウス」は、規格外品3%は外部委託でトマトジュースに加工されています。

パイプハウス、選果所とも土足のまま出入りしないなど清潔を保つよう工夫されていました。またパイプハウスには環境制御システムを取り入れ二酸化炭素量、湿度、日射量などを測定してハウス内環境を最適に保つように制御されていました。問題点として、組合員の年齢構成が年々高くなるので今後若層を職員として採用することが必要になるとのことでした。

最初に竹下組合長様より事業概要の説明がありました。はね営農組合は平成21年4月設立、組合員数66名。経営面積は田24.7ha、畑0.4haです。今年より新たにアンジェシをパイプハウス28aに導入し現在栽培中です。春秋2期作で年間収量約12tを計画しており、専従職員1名、パート作業員約10名が午前、午後の交代制で収穫などを行っているということでした。ア

視察を終え、ハウス栽培管理設備など将来を見据えたものになっており非常に参考になりました。衛生管理も参考にすべき点です。また問題点は何処も同じだと痛感しました。





## 田んぼの様子

なかなか開けない梅雨の中、雨の止み間を狙って大豆の播種を行いました。小さな芽が顔を出し始めています。水稲はつや姫、コシヒカリに花



がつき始め穂が出揃いました。8月に入るとWCS（飼料用稲）の刈取りロール作業が始まります。とまとは背丈が伸び小さな実を付け始めました。盆明けには出荷の予定です。イチゴのハウスでは9月定植に向けて準備が進んでいます。

### お知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため『きてこしない祭り』を延期するお知らせでしたが、今年は中止とします。



### 代溝て開催

7月5日（日）に播種管理棟で春作業に参加した方を対象に代溝てを行いました。該当者74名のうち32名の参加がありました。

新型コロナウイルスについて非常事態宣言は解除されたとはいえまだまだ対策が必要なため、消毒液の設置、テーブルの配置、換気など対応したうえで、バーベキューにてにぎやかなひと時を過ごしました。

播種管理棟は照明のあるコンクリート敷きのパイプハウスなので夕方からの催しでしたが快適な時間を過ごすことが出来ました。



なたね油が紹介されました  
月刊誌「ミセス」9月号になたね油が掲載されました。料理研究家の藤井恵さんが道の駅あらえっさにイバントで来県された際、気に入っていただきご紹介くださいました。



ミセス9月号より転載

### ちよっこし聞いて

この時期植物の成長は著しく一日違えばまた新しい様子に変わってきています。稲しかり、大豆しかりです。はたまた雑草しかりですね。◆なたね油がメジャーな雑誌に掲載され、これで全国の皆さんにのきの郷のなたね油が知ってもらえたらなんて広大な野望も見え隠れです。(た)

